



あなたのワンちゃん、最近こんな様子は見られませんか？



散歩に行くと
すぐ疲れて
座り込む...

呼吸が速くなる
ことがある...

もしかしたら **貧血** かもしれません。

どんな
病気？

赤血球の数やヘモグロビンの量が、病気や炎症によって減ってしまった状態。人の貧血は、鉄分の摂取不足が原因となるイメージがあるかもしれませんが、犬の場合は、何かしらの病気が原因で貧血になることが多いです。



貧血の
タイプと
病気

赤血球の数やヘモグロビンの量が減る理由により、大きく2つのタイプに分けられます。

タイプ1

赤血球が
つくられても
失われる

赤血球が正常につくられても、消化管の潰瘍や腫瘍などから出血して貧血に。中毒や病気が原因で赤血球が壊れ、貧血になるのもこのタイプ。

タイプ2

つくられる
赤血球が
少ない

慢性腎疾患や甲状腺機能低下症、重度の感染症などの炎症が原因で、新しくつくられる赤血球の数が減り、貧血になってしまうタイプ。

主な
症状

- 食欲不振
- 元気がない
- 呼吸が速くなる など

貧血の状態では、体に酸素を十分に運べないため、体が酸欠になり、さまざまな不調があらわれます。**歯ぐきや結膜などの粘膜、舌の色が、白っぽくなったり、青っぽく見えたりすると重症のサイン。**すぐにかかりつけの動物病院へ行きましょう。

貧血の症状が出るおもな病気

タイプ1

消化管や腫瘍からの出血

消化管がただれたりえぐれたりする胃潰瘍や十二指腸潰瘍は、潰瘍の部分から出血します。また、腫瘍が破れて出血し、貧血になることも。

タイプ2

慢性腎疾患

腎臓の機能が徐々に低下する病気で、シニア犬に多く見られます。急激な体重減少や多飲などの症状に注意。

甲状腺機能低下症

甲状腺に異常が発生し、細胞の代謝などを行う甲状腺ホルモンの分泌が低下する病気。シニア犬に多く見られます。

早期発見
するには...

定期健診がおすすめです。

犬の様子から貧血を早期に見つけるのは難しいですが、貧血はさまざまな病気の症状として見られるため、軽度の段階で発見したいところです。おすすめは定期健診。実際に、**軽度の貧血が見つかることや、過去の検査の結果と比較することもできるため、数値の変化から病気の発見につなげることができます。**

犬の現代病は、「いぬのきもち」で毎月連載中!

●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込むと
2号 (2ヶ月分) **無料!!**

いぬのきもち
かゆみ
大解凍